



ボッシュ、米国における設備投資を強化 – 2016年に4億ユーロ投資 技術革新をリードする米国への投資により事業をさらに強化

2016年11月14日

9476 B6/KB

- ▶ 米国の従業員数は、2017年までに約1万8,800人に増加
- ▶ サウスカロライナ州のチャールストン工場で自動車用部品の生産能力増強を計画
- ▶ スマートシティ、インダストリー4.0: 大きな可能性を秘めるネットワーク化事業

パロアルト(米国)ノシュトゥットガルト(ドイツ)–グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュ・グループは、米国の事業に拡大させるため、2016年に前年比20%増となる約4億ユーロ(約4億5,000万米ドル)を米国に投資する予定です。またボッシュの米国における従業員数も、現在の1万7,800人から2017年初めまでに約1万8,800人に増える見込みです。北中南米地域を担当するボッシュ取締役会メンバーのヴェルナー・シュルトは、パロアルトで開催した記者会見のスピーチで「このことは、米国での私達の自信を表しています。米国は安定した市場であるだけでなく、技術革新を力強く推進してくれる存在でもあるからです」と述べました。

ボッシュはまた、米国で最も長い歴史をもつサウスカロライナ州のチャールストン工場を段階的に拡充し、職業訓練や職業能力開発活動にも重きを置く計画を発表しました。現在、同工場では1,700人以上の従業員が自動車用安全システムのABSやESCなど自動車向け装備の製造に携わっています。

ボッシュは近年、米国での開発活動に力を注いでいます。例えば、ペンシルバニア州ピッツバーグにあるコンピテンスセンターを拡大し、ここを新たな中央拠点とし、現地での活動を一元管理することにしました。ここで働く従業員は、主にIoT向けのインターネット/セキュリティ技術の開発に携わっています。ボッシュはさらに、車載エレクトロニクスやドライバーアシスタンス/セーフティシステムなど、未来のモビリティのための主要な技術を手がけるミシガン州プリマスのテクニカルセンターも拡大しました。ボッシュは、2011年から2015年の間に総額15億米ドル(約12億ユーロ)を米国に投入しています。

ボッシュは米国でM&Aによる拡張戦略も進めています。「米国は非常に期待できる市場ですし、世界で最も革新的な企業が多い国です。そのため、私たちは米国での企業

買収にこれからも力を入れるつもりです」(シュトルト)。ボツシュは近年、ニュージャージー州クリフトンに拠点を置くビルディングオートメーションのスペシャリストである Skyline Automation 社を傘下に収めました。これにより、ボツシュは市場でさらに強い存在感を発揮できるでしょう。この Skyline Automation 社は、建物内のさまざまな技術システムの設置やネットワーク化を含めたビルディングオートメーションとシステムの統合を専門に手がけています。さらに 2015 年には、エネルギー効率、ビルディングオートメーションやセキュリティソリューションのリーディングサプライヤーである Climatec 社を傘下に収めました。

大きな可能性を秘めているネットワーク化事業

人口が 3 億 2,000 万を超え、国内総生産(GDP)で世界 1 位に輝く経済大国の米国はボツシュにとって非常に重要な存在で、特に IoT 分野には大きな期待ができます。ボツシュは、IoT 市場が 2020 年までに約 2,500 億米ドル(約 2,800 億ユーロ)の規模に成長し、その 35%が米国で達成される見込みです。OECD(経済協力開発機構)の調査報告書によると、ネットワーク化された機器の多さで米国は上位 5 カ国の 1 つにランクインしており、IoT 事業にとっても重要な市場になります。シュトルトも、「日々の暮らしがより快適になり、生活の質を向上させるネットワーク化ソリューションを通じて本当の価値を生み出すことができれば、ボツシュはさまざまなチャンスを探るはずで」と述べています。そこでボツシュは、スマートシティ、スマートホーム、スマートエネルギー、スマートインダストリー、スマートモビリティなど、多くの分野のためにより安全、便利で高効率なソリューションを提供することを目標に掲げています。

スマートシティに向けて

スマートシティのトレンドが、ネットワーク化ソリューションに新たな可能性をもたらしています。なぜなら、都市のエネルギー効率のポテンシャルが非常に大きいものだからです。世界で生成されるエネルギーの約 75%が都市で消費され、その 40%を建物のみで消費しています。しかし市場の専門家は、都市でネットワーク化が進めば、2019 年までに約 110 億米ドル(約 120 億ユーロ)相当のエネルギーコストを削減できると推定しています。

そうしたプロジェクトの 1 つがサンフランシスコで進められています。海軍造船所([The San Francisco Shipyard](#))とキャンドルスティックパーク・スタジアムの跡地に新しい魅力的な「ウォーターフロントコミュニティ」を開発し、ここに住宅 1 万 2,100 棟、約 43 万坪の公園とオープンスペース、高級アウトレットモール、約 50 万㎡の商業スペース(研究開発/メーカー/オフィスなど)、約 300 のアーティストスタジオが建設される予定です。これは、サンフランシスコ地震が発生した 1906 年以降で最も規模の大きい再開発プロジェクトとなります。このプロジェクトでは、FivePoint と Bosch technologies がシップヤード区域のネットワーク化に協力して取り組み、モビリティとネットワーク化を充実させ、スマートホームやスマートコミュニティ向けのソリューションを備えた「スマートシティ」の実現を目指しています。ボツシュは FivePoint の技術パートナーとして参加し、住民が地域の公共交通機関に関する情報をリアルタイムで入手したり、インテリジェントなモニタリングソリューションにアクセスできるスマートコミュニティアプリなど、この近

代的な地域のためのスマートソリューションを構築しています。さらに、人々の生活の質の向上を促すスマートビルディングや効率的な交通マネジメントを実現する未来志向のソリューションも計画されています。

コネクテッド・マニュファクチャリングにより効率が向上

ボッシュは製造の分野でネットワーク化を推進し、米国の自社工場にもインダストリー4.0ソリューションを組み込んでいます。ボッシュは米国の23の工場で4つの事業セクター向けの製品を製造しており、そのうちの7つの工場で工業製造分野向けのコンポーネントが製造されています。例えば、サウスカロライナ州アンダーソンの工場で働く従業員に、データ通信と製造現場の状況把握のためにボッシュで初めてスマートウォッチを取り入れてもらったり、ネットワーク化ソリューションを同州チャールストンにある工場でも活用するなど、さまざまな取り組みが進められています。インダストリー4.0では企業や国の枠を超え、異なるメーカー製の機器やソフトウェアの相互接続が可能になるよう、ボッシュはオープンスタンダードの導入を支持しています。そのためボッシュは、ドイツのインダストリー4.0プラットフォームと米国に拠点を置く国際的なインダストリアル インターネット コンソーシアム(IIC)との間で近頃合意されたパートナーシップを歓迎しています。ボッシュはこのどちらの組織にも会員として名を連ね、国境を越えた技術規格の推進を支援しています。

米国はボッシュのイノベーションを支える原動力

ボッシュは、米国で約2,300人以上の研究者と開発者を擁しています。ボッシュの研究開発・先端エンジニアリング本部は1999年に、ドイツ国外で初となる技術研究センター(RTC)をパロアルトに開設しました。同拠点では現在、非常に高度な知識を持つ約100人の従業員たちがウェブテクノロジー、自動運転システム、ロボット工学など、将来のさまざまな動向を研究しています。こうした研究開発活動において、ボッシュは従業員のもつ専門知識はもちろん、カーネギーメロン大学やスタンフォード大学などの米国有数の大学との長期にわたる協力関係も重視しています。

カリフォルニア州のスタートアップ文化

パロアルトにあるボッシュの技術研究センターは、数多くのハイテク企業の近くにあるという好立地を存分に活かしています。また、社内のスタートアッププラットフォームとグループ子会社のRobert Bosch Venture Capital(RBVC)を通じて、ボッシュ・グループはシリコンバレーの活気に満ちたスタートアップ文化を正確に把握しています。現在、世界のベンチャーキャピタルの約55%が米国に投資しています。「シリコンバレーはいわゆる『起業の聖地』なので、ここでベンチャー企業が雨後の筍のように出現するのは当然のことです」とシュトルトは述べ、さらにこう続けました。「ボッシュは、定期的な情報交換と的確な投資を通じて新しいトレンドに早期に対応し、これまでにない分野の開発に取り組むことが重要だと考えています」。その例の1つが、RBVCから資金提供を受けているベンチャー企業のAimotiveで、同社もボッシュと同じく自動運転の開発に取り組んでいます。なお、RBVCは世界の30社のベンチャー企業の株式を保有しており、そのうちの8社は米国、さらにその4社はシリコンバレーに拠点を置いています。

ボッシュはまた、ペデレックと呼ばれる電動自転車用の車載コンピューターやドライブトレインなどのラインナップを揃えている Bosch eBike Systems をはじめとしたボッシュ・グループ内のベンチャー企業と協力して成果を生み出しています。この Bosch eBike Systems は 2009 年にグループ内で立ち上げられた会社で、今ではグローバルマーケットリーダーの 1 つに数えられるまでになりました。さらに、ボッシュは米国とカナダの市場に進出するために、カリフォルニア州アーバインに Bosch eBike Systems Americas を 2014 年 3 月に設立しました。電動二輪車の主要な技術には、ボッシュがパロアルトで改良に取り組んでいるリチウムイオンバッテリー、そしてモーターやコントロールユニットが含まれています。

ボッシュが米国で積み重ねてきたサクセスストーリー

ボッシュは長年にわたり米国で実績を積み重ねています。若きロバート・ボッシュは 1880 年代に新世界に渡り、ニューヨークのエジソン・マシン・ワークス社で働いたことがあります。また、ボッシュがベンチャー企業からグローバル企業へと発展する過程で大きなマイルストーンの 1 つとなったのは、1906 年に米国市場に進出したことでした。20 世紀初頭、米国の自動車市場はドイツの市場の 40 倍の規模だったからです。今日のボッシュは、この有望な米国市場の可能性を引き出せるような好位置につけています。米国における昨年 (2015 年) の事業は大きく進展し、売上高が約 122 億米ドル (約 110 億ユーロ) に到達しました。経済的な問題は依然として残っているものの、ボッシュ・グループは今年度も米国で継続成長を期待できると見えています。

ネバダ州ラスベガスで体験できるボッシュのネットワーク化ソリューション

ボッシュは CES 2017 で、IoT が日常生活に浸透し、モノが人々のパートナーになる様子を紹介する予定です。ここでは、IoT がパーソナルアシスタントのように、モビリティの改善、未来の都市生活のあり方、スマートホーム、健康管理の効率化、効率的な働き方など、さまざまな場面で人々の暮らしをサポートしてくれます。CES 国際家電ショーの出展が 5 回目となる今回、ボッシュはテーマである「simply.connected」にふさわしい多数のソリューションを展示します。

ボッシュ取締役会メンバーの記者会見: 2017年1月4日(水)、9:00 – 9:45 AM (現地時間)、ボッシュ取締役会メンバーのヴェルナー・シュトルト、マンダレイベイ・ホテル南コンベンションセンターのホール B/C/D で開催

CES 2017におけるボッシュのハイライトをツイッターで紹介: #BoschCES

ボッシュのブース: 2017年1月5日(木)~8日(日): 中央ホール、#14128

ボッシュのエキスパートによる講演会:

- 2017年1月5日(木) 11:30 AM ~ 12:30 PM (現地時間): [Conference track “MEMS & Sensors: Personalizing Consumer Technology”, Session “Where are Consumer Electronics Taking the Sensors Industry?” with Dr. Stefan](#)

[Finkbeiner, CEO and General Manager, Bosch Sensortec; Venetian, Level 4, Marcello 4501](#)

- 1月6日(金) 3:30 ~ 4:30 PM(現地時間): [Conference track “Vehicle Technology”; Session “Redefining the Automotive Infotainment Experience” with Mr. Torsten Mlasko, Las Vegas Convention Center N258](#)

報道関係対応窓口:

Melita Delic

電話: +49 711 811-48617

Trix Böhne,

電話 +49 711 811-6831

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2015年の従業員数は約37万5,000人(2015年12月31日現在)、2015年の売上高は706億ユーロを計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売/サービスパートナーを含む世界的な製造・販売ネットワークは約150カ国を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界約118の拠点で5万5,800人の従業員が研究開発に携わっています。私たちボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life.」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861~1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)